

分科会 「天然資源」の要約

本分科会は、有限な天然資源の持続可能な利用について、バイオマス、水、エネルギー・大気環境に焦点を絞って議論した。

天然資源の持続可能な開発の障害を特定するために努力した。多くの鍵となる天然資源は地球上の限りある資産であることは疑いない事実であり、その他の資源についてもキャパシティに限界がある。現代、そして将来世代のために、天然資源の持続可能な利用を行うことが必要である。そのための一つの解は、成長志向のパラダイムから持続可能なパラダイムに転換することである。我々は、これまでの予測型の政策決定から、着地点をあらかじめ設計してそこに向かって現在の状況を如何に変革していくのかというバックキャスト型のアプローチを取るべきである。

議論の中で強調された主なポイントには次のものが含まれる。

バイオマスについて

- ・ バイオマスは、適切な場合には、巨大なエネルギー/材料でマーケットにおいて相当の割合を占める可能性を有している。普及を促進するためには、更なる技術革新と経済的なインセンティブの設定が必要である。
- ・ 特に更なる支援制度により、電力供給におけるバイオエネルギーの普及に相当の影響をもたらしたことが明らかになった。
- ・ 付加価値がある場合には、政治的意思は、バイオマス/材料技術の普及を促進するのに不可欠である。
- ・ 教育は、先進国でも途上国でもすべてのレベルにおいて鍵となる。
- ・ 利用可能な最善のバイオマス/バイオマス技術は、国や地域によって異なる。
- ・ 適切な手法を考慮せずに行うと、バイオマスの燃焼は、煙害や森林破壊といった別の問題を生み出す可能性がある。
- ・ ドイツや日本のような先進国における、バイオマスエネルギー/バイオマス原料の持続可能な利用に向けた経験を、他の国々、特に途上国と共有すべきである。

水について

- ・ 水は天然資源以上のものである。人類の生活と文化において特別な位置を占め、非常に生態学的上の重要性を有している。
- ・ 水資源の持続可能な使用を目標として多くの国際的な協定が結ばれてきた。しかし、種々の大きな問題を克服するための行動には、政治的な強い意思を必要とする。

- ・ かかる行動の実行を促進するためには、成功事例を収集し公表することが不可欠である。
- ・ 分科会は、それぞれの地域の気候や土地の条件に応じて、さまざまなタイプの水の問題が生じていることを認識した。日本のこれまでの経験は、成功例、失敗例共に類似した地質条件及び気候の条件を有する他の国々の水管理の改善に寄与することができるであろう。
- ・ 分科会は、水政策状況に関するデータベースを確立する日本のイニシアティブである「アジア水環境パートナーシップ (WEPA)」が、途上国への貢献の良い例であることに留意した。
- ・ 水問題についての越境紛争を解決するには、相互理解の基礎としての正確な情報の交換が重要である。
- ・ 飲料水の水質の悪化と適切な衛生設備の欠如は、途上国における二つの最も重大な問題である。

エネルギーと大気環境について

- ・ 分科会では、大気はエネルギー消費により悪化され得る、重要な地球規模での共有天然資源であることを認識した。エネルギーは、いろいろな形で我々のところへやって来る天然資源だ。
- ・ 気候に関する国際的な政策は、IPCC によってもたらされた科学的コンセンサスによって支持されて、急速でかつ意味のある進展を果たした。
- ・ 分科会では、京都議定書の有効性についてのさまざまな議論により、気候変動の特性と技術革新を考慮すると長期的なアプローチが重要であるという一般的な合意があった。同時に、気候変動の影響が出るのには時間がかかるという事実から、例えば「後悔しない対策」のように即座に行動をとることが必要であるとのコメントがあった。
- ・ 全体的かつ科学的評価を行うことが、気候政策に関する意思決定プロセスにおける一つの鍵である。気候変動に起因する影響を注意深く考慮することが必要である。
- ・ 将来の地球気候レジームの改善が必要であるとの示唆があった。このような制度は、継続的な取組を確保し、十分な柔軟性を有し、持続可能な成長を促進するための技術革新に拍車をかけ、把握可能な温室効果ガスの排出と経済活動の増大とのリンケージを切り離す技術的に可能なアプローチに基づくものである。
- ・ 先進国、途上国両方から鍵となる関係者を衡平に含む、地球規模の環境に関する検討のための仕組みを確立するために、透明かつ参加型のプロセスの重要性を強調するコメントがなされた。

勧告

分科会では、以下のことが必要であると認識した。

- () 良いデータ、良い科学 特に関時変化のモニタリングに関して
- () 特に、ぶつかりあう要求を評価し査定し、かつ難しい決断をすることに関する政治的なリーダーシップと政治的意思
- () 政治的プロセスに対して情報を供給しそれを進める力となる教育を受けた一般市民
- () 特定の問題だけでなく、グローバルな政策はどのように作られ実施されるのか、及びどのように国際経済のメカニズムが働くことになっているのかに関する一般市民への教育
- () 地球上の天然資源の限界を認識し、成長志向のパラダイムから持続可能志向のパラダイムへと移行すること
- () 利用可能な最善の技術は、地域に固有の文化と社会経済に大きく左右されることを認識した上での、天然資源の有効利用の実現にとって重要な技術開発
- () 先進国と途上国が天然資源を適切に管理するために鍵となる手段として、国内のみならず国際的にもすべてのレベルに対する教育
- () 長期的目的をもった決断を奨励することが政策立案者にとっていかに困難かを理解した上で、国際的に合意された天然資源の持続可能な使用のための行動を実施するというリーダーシップに支えられ、情報を共有する市民に支えられた政治的意思
- () 近隣諸国における条件の類似性を考慮した地域的な協力
- () 現存する制度から得た教訓に基づき、情報を共有する一般市民によって支えられた、大気を含む天然資源を管理する国際的な枠組の更なる開発
- () 我々の惑星の持続可能な将来を実現するための断片的ではない全体的/統合的なアプローチ、また、市場のメカニズムは不安定ではあるが、天然資源の管理に当たって考慮されなければならないことが強調された。

